


4. 保護・リハビリのニーズを抱える子どもたちのためのセンター

(1) 活動報告（概要）

		助成元	日本社会福祉弘済会
国名	インドネシア	団体名	Lembaga Kesejahteraan Sosial(LKS) SOCIETA INDONESIA (SOCINDO): Certified-Licensed Social Worker Office/ Institution (社会福祉協会/社会福祉士事務所)
責任者	Mr. Wawan Setiawan	担当 修了生	ワワン (19期) (Wawan Setiawan)
事業名	保護・リハビリのニーズを抱える子どもたちのためのセンター		
活動地			
活動報告（目的・内容、成果など）			
1. 支援対象 チアンジュール地区内ゲクブロング小地区の ①薬物中毒の子ども 16名 ②触法行為を行った子ども 22名 ③保護者のいないためにネグレクト状態にある子ども 32名 助成金額 30万円			

2. 目的・実施理由

- ①問題を抱えているとされた子どもに、身体的・心理的・社会的・精神的サービスを提供し、薬物の危険な摂取を減らすべく介入する。
- ②防止のプロセスの中で、成育歴・心理的要素・環境要因など、子どもたちが薬物中毒や触法行為等をするリスクをつくりだす要素を明らかにする。

3. 実施内容

- ①プロジェクト準備・広報
- ②センター/シェルターあるいは地域における、子どもたちのピアグループによる会合
- ③センター/シェルターあるいは地域における、家族によるサポートグループの会合
- ④センター/シェルターにおけるソーシャルワーカーの介入、あるいは家庭や地域を訪問する活動
- ⑤活動継続に向けての戦略実施のためのワークショップ

4. 成果

a) プロジェクト準備・ならびに広報

- ①プロジェクトチームとLKSの全スタッフによる準備
- ②ゲクブロングサブ地区内の村のイスラム教リーダーへの周知・普及
- ③ゲクブロング周辺の学校、寄宿学校への周知・普及
- ④地域（隣組レベル）のリーダー（公式・非公式）への周知・普及
- ⑤政府関係部署等（町政府、郡政府、警察署、社会福祉系部署）への周知・連携
- ⑥対象となる子ども、その親たちへ直接的な働きかけ

b) プロジェクト準備・周知後の実施要項

- ①子どもたち（薬物中毒、触法、保護者のいない子ども）、その家族（両親）、ソーシャルワーカー/ボランティアが、活動を行うためのセンター（建物や賃貸の施設など）の提供
- ②コミュニティをベースとした子どもたちと家族へのアウトリーチ活動
 - ・ソーシャルワーカーによる家庭訪問
 - ・ソーシャルワーカーによる学校やコミュニティへの訪問
 - ・ソーシャルワーカーによる 身体的・心理的・社会的・精神的 アセスメント
- ③子どもたちのピアグループによる会合と活動の企画
 - ・イスラム教の宗教マナー
 - ・グループ・ディスカッション
 - ・遠足、レクリエーション
 - ・社会生活技術

- ・ 心理的サポート（セラピー）
- ④家族のサポートグループの会合と活動
 - ・ グループ・ディスカッション
 - ・ 子育て技術のトレーニング
- ⑤プロジェクト活動継続の戦略実行のためのワークショップ
 - ・ ケース会議
 - ・ ソーシャルワーカーのリフレッシュと能力向上のためのワークショップ
 - ・ LKS 全スタッフと政府関係者の評価、次期計画のためのワークショップ

5. 今後の展望

薬物中毒、触法、家族から適切なケアを受けられない子どもたちは、専門的アプローチを通じた集中的な見守りと介入を必要としている。

このような子どもたちの問題は近年インドネシア政府の最優先事項となっている。

専門ソーシャルワーカーのオフィスとして公認されている LKS は、将来的には、居住型施設を建設するとともに、専門的なサービスやこのプログラムの継続を予定している。